Fostering Trade in Africa: Trade Relations, Business Opportunities and Policy Instruments

Gbadebo O.A. Odularu, Mena Hassan, and Musibau Adetunji Babatunde, eds.

Cham: Springer Nature Switzerland AG 2020 ix+218 p.

アフリカの貿易額は年々増えているとはいえ、そのシェアは世界全体の 3%に満たず、域内貿易の比率も EU や北米、アジア地域に比べて低い水準にとどまっている。本書は、そうしたアフリカの貿易を増大させるための対応策を考察している研究書である。一般的に、貿易増大に効果的と考えられているのは貿易自由化であり、アフリカでも大陸全体での自由貿易圏形成をめざす AfCFTA が動いている。しかし本書では、貿易自由化の動きについてはほとんど取り上げていない。序章と終章を除くと、全部で 8 本の論文が所収されているが、輸出入手続きの簡素化・迅速化や貿易規則の公表など貿易コストを削減するための貿易円滑化に関するものが 3 本、貿易自由化が 1 本、対外関係が 3 本（うち 1 本は貿易円滑化に関するインフラ整備支援について考察）、貿易のための援助が 1 本（貿易円滑化の事例を中心に考察）という構成を取っている。

本書が貿易円滑化を注視するのは、編者達が、サプライチェーンが国際化するなかでシームレスな物流はアフリカの貿易活性化に必要不可欠であると考えているからである。そして非関税障壁が多く存在するアフリカにおいては、より現実的な貿易促進策として貿易円滑化が重要であるのに、政策担当者のあいだで重視されていないという危機感からでもある。こうした観点から、本書は WTO の貿易円滑化協定（2017 年発効）の実施がアフリカ諸国にとってプラスになる、なかでも貿易手続きの一元化（シングルウィンドウ）の効果は大きいと主張する。同時に問題点として、アフリカ諸国の大半が貿易円滑化協定を批准しているにもかかわらず実際の取り組みは各国ばらばらで、アフリカ全体の実効的な円滑化は進んでいないと指摘している。また、アフリカは陸路、海路、空路すべての交通インフラに問題があり物流網の整備が必要であること、貿易円滑化を進めるには、国内の関係省庁間、あるいは国際機関や各国政府、さらには民間企業といったステークホルダー間の協力が欠かせないことなどを具体的なケースを挙げながら検討している。

本書のもう一つの特徴は、アフリカ最大の貿易相手である EU について触れている論文がないことである。対外関係を扱っている 3 本は、中国、アメリカ、そして米中貿易紛争のアフリカへの影響を考察している。対中関係では「一帯一路」事業により対外債務が膨らんだスリランカを念頭に、そうした事態を避けるための対応策を提起し、米中貿易紛争で生じたアメリカ産業界の中国離れをビジネスチャンスと捉え、市場あるいは投資先としてのアフリカの魅力を増すために早急な貿易円滑化を推奨するなど、戦略的な提言を行っている。貿易自由化の動きや EU の存在に隠れがちであるが、より現実に即した、今すぐに取り組むべき課題が検討されており、アフリカの貿易に関する実状を具体的に知ることのできる一冊である。

箭内　彰子（やない・あきこ／アジア経済研究所）

© IDE-JETRO 2022